



Japan Display Inc.

2023年度 第3四半期  
決算説明資料

2024年2月9日

株式会社 ジャパンディスプレイ

**この度の令和6年能登半島地震により、被災された皆さま、避難されている  
皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。  
JDI役職員一同は、一日も早い被災地の復興、及び被災された皆さまの  
生活再建を、心よりお祈り申し上げます。**



# PersonalTech For A Better World



Japan Display Inc.

## 2023年度第3四半期 総括

- **元日の能登半島地震で当社石川工場が被災**
  - 複数の配管の損傷、漏水、ボイラー停止、機器のダメージとラインずれが発生
  - 70名以上の復旧タスクフォースを即時立ち上げ、翌日早朝から復旧活動開始
  - 1月24日より一部ラインで生産開始、1月31日から完全生産再開
  - 業績への影響は軽微と見込む

- **JDIの将来を担うOLED事業は快進撃を継続**
  - 液晶からのシフトが進み、OLEDは成長産業
  - JDIの競争優位性が確立され、顧客からの引き合いが大変旺盛、マーケットシェアを拡大中
  - 稼働率100%。顧客需要が生産能力を超過し、eLEAPで追加需要に対応
  - 前期比+76%の大幅売り上げ増を予想、来期以降の成長も見込む
  - 規模の経済性による黒字化達成
- さらに、今までにない圧倒的なコストパフォーマンスを有する次世代OLEDであるeLEAPが今後の飛躍的な成長を牽引
- 中国安徽省蕪湖市と大規模eLEAP事業立ち上げに関するMOUを締結し、eLEAP生産能力の50倍以上拡大に向けた協議が順調に進行中

- 他方で、液晶事業は引き続き大幅赤字であり、飛躍的な収益改善に向けたさらなる抜本改革は必要不可欠
  - 聖域なきコスト削減
  - METAGROWTH 2026成長戦略に基づく「世界初、世界一」の新技术・新商品・新事業を創出
  - 規模の経済性を確保するための工場稼働率向上
- この状況において、JDIが得意とする高性能LTPSパネルの需給逼迫、および業界を通してのサプライチェーンの国際分散化は当社の工場稼働率向上に大きく貢献する可能性があるとともに、業界再編を促進
- 盤石な収益基盤の構築に向けて思い切ったビジネスモデル改革も推進
  - その一つに、JDIの「Virgo」最先端スマートリングとウェルネスサービスを先日発表



Japan Display Inc.

# 2023年度第3四半期 業績報告

# FY23 3Q累計期間 決算概況



円安効果、固定費削減等によりEBITDA・営業利益は計画比上振れて着地  
厳しい環境は続いており、早期の黒字化に向けて抜本改革を聖域なく推進

売上高 1,804億円 計画比 +1%

コア事業（車載、スマートウォッチ・VR等）は堅調に推移、  
ノンコア事業（液晶スマートフォン）は経営資源の成長事  
業への集中による戦略的縮小から前年同期比減収

EBITDA △230億円 計画比 +14億円

固定費削減、円安効果等もあり、11月の社内計画比で  
上振れ。能登半島地震の影響は軽微の見込み。

営業利益 △277億円 計画比 +16億円

純利益 △380億円 計画比 ±0億円

営業利益は上振れも、LCD関連資産の減損損失計上  
（110億円）により四半期純利益は計画値で着地

※ 事業の実態を分かり易く反映するため、2023年度第2四半期決算より、売上分野の名称を次の通り変更いたしました。：「モバイル」→「液晶スマートフォン」、「ノンモバイル」→「スマートウォッチ・VR等」  
なお、当該変更は名称のみの変更であり、売上区分の変更はございません。

※ 「計画比」は、2023年11月10日に発表の2023年度の業績予想に紐づく、第3四半期累計期間の社内計画値と実績値の比較値です。

## EBITDA・営業利益は前年同期比大幅改善

**売上高**            **605億円**    前年比 **-13%**

コア事業（車載、スマートウォッチ・VR等）は堅調に推移、  
ノンコア事業（液晶スマートフォン）は経営資源の成長事  
業への集中による戦略的縮小から減収

**EBITDA**            **△49億円**    前年比 **+36億円**

売上高減少も、固定費削減効果、OLEDスマートウォッチの  
黒字化等のミックス改善により、大幅改善

**営業利益**            **△62億円**    前年比 **+44億円**

**純利益**            **△93億円**    前年比 **-35億円**

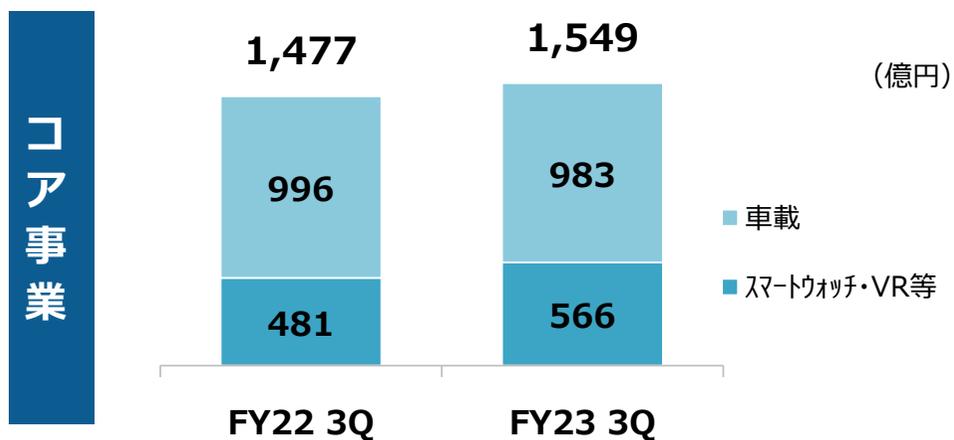
前年同期計上の特別利益の剥落及び今四半期のLCD関  
連資産の減損損失計上（18億円）により減益

※ 事業の実態を分かり易く反映するため、2023年度第2四半期決算より、売上分野の名称を次の通り変更いたしました。：「モバイル」→「液晶スマートフォン」、「ノンモバイル」→「スマートウォッチ・VR等」  
なお、当該変更は名称のみの変更であり、売上区分の変更はございません。

# FY23 3Q累計期間 売上高



## OLEDスマートウォッチは顧客需要旺盛で増収 戦略的縮小によりノンコア事業の液晶スマートフォンは減収

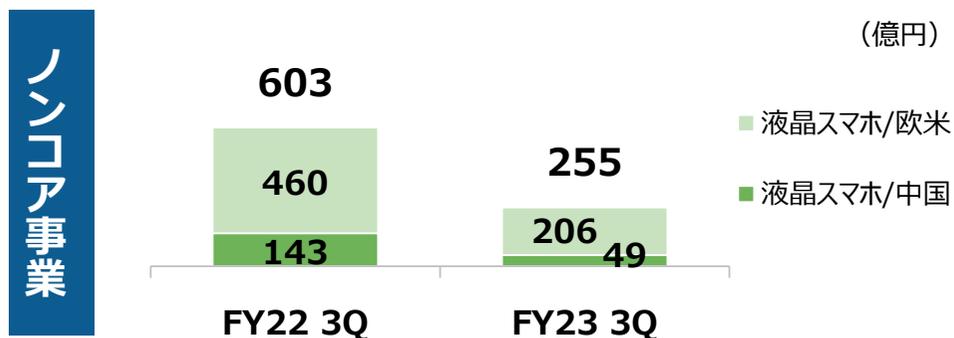


### 車載 (前年同期比-1.3%)

不採算製品からの撤退により前年同期比微減となるも、  
中長期的成長トレンドは継続

### スマートウォッチ・VR等 (前年同期比+17.6%)

OLEDスマートウォッチの販売増により増収



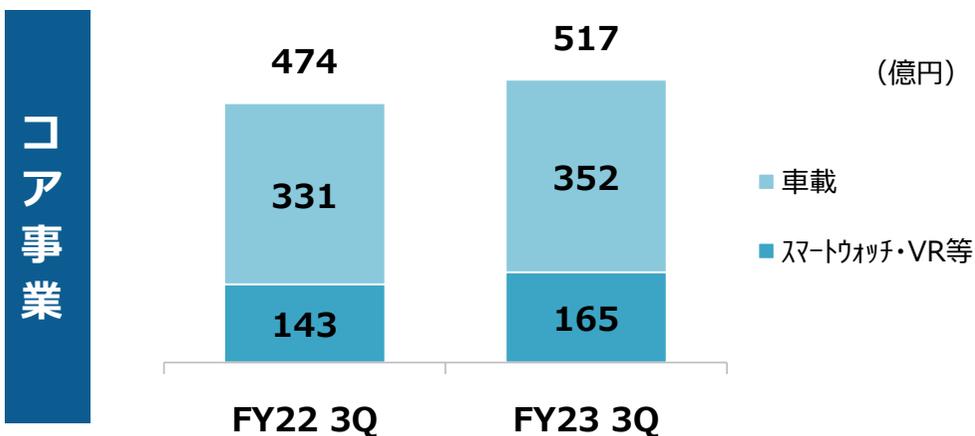
### 液晶スマートフォン (前年同期比-57.7%)

液晶スマホ事業の撤退方針に基づき戦略的に縮小

# FY23 3Q会計期間 売上高



## 車載は不採算製品からの撤退あるも増収、OLEDスマートウォッチも堅調 戦略的縮小によりノンコア事業の液晶スマートフォンは減収

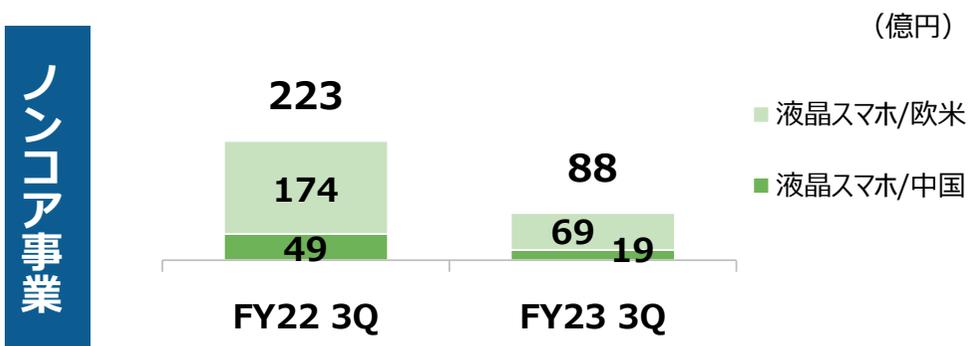


### 車載 (前年同期比+6.5%)

中長期的成長トレンドにあり、足許で不採算製品からの撤退あるも増収

### スマートウォッチ・VR等 (前年同期比+15.1%)

OLEDスマートウォッチの販売増がけん引



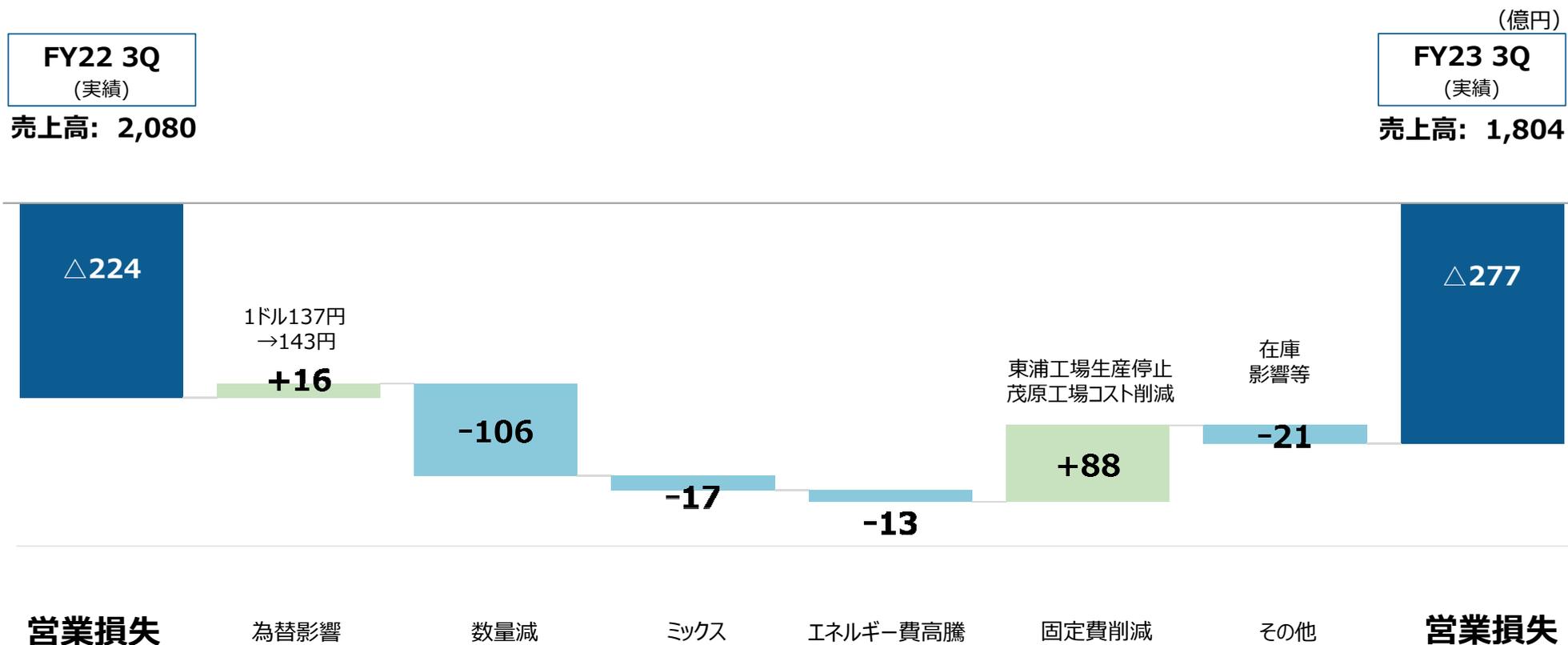
### 液晶スマートフォン (前年同期比-60.6%)

液晶スマホ事業の撤退方針に基づき戦略的に縮小

# FY23 3Q累計期間 営業利益増減要因



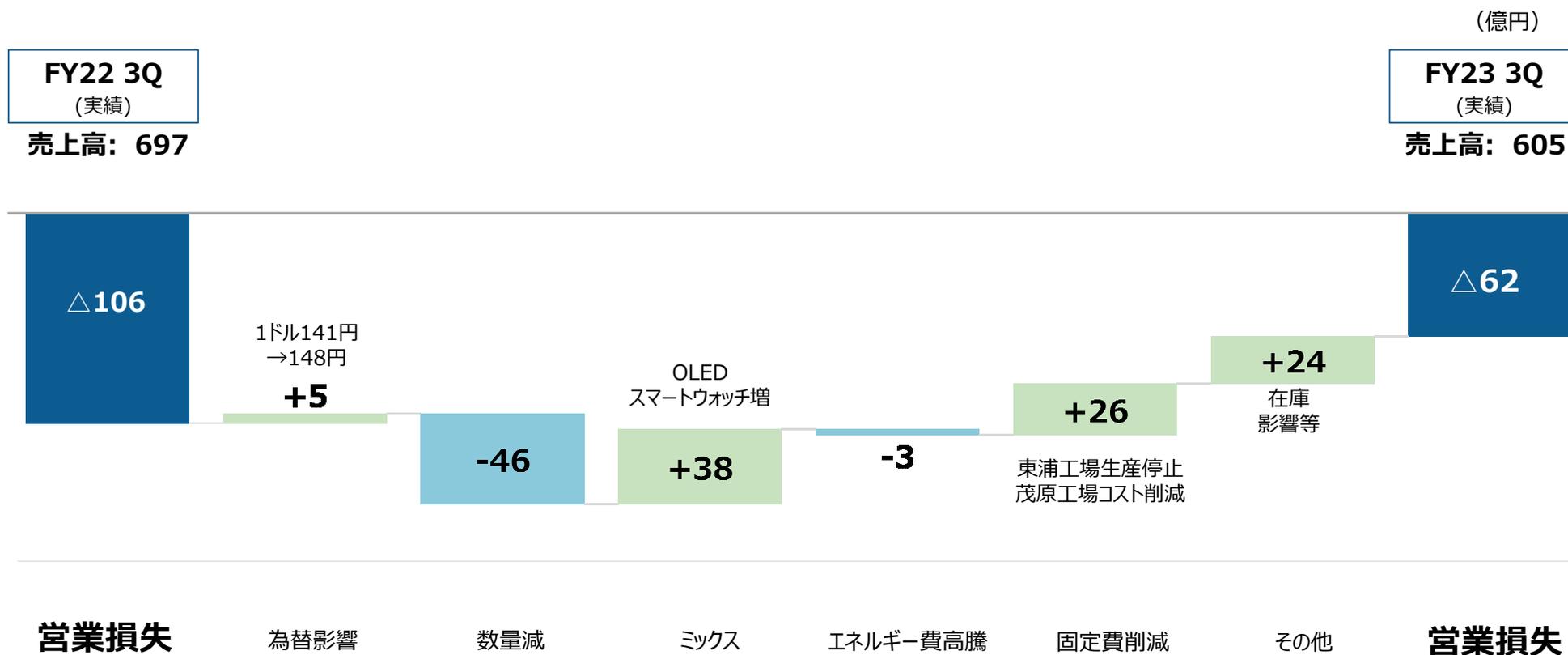
固定費削減施策にて一部吸収したものの、VR売上高の大幅下振れ及び車載事業における競争激化により営業損失が拡大



# FY23 3Q会計期間 営業利益増減要因



## 固定費削減施策に加え、 OLEDスマートウォッチの販売増により損失大幅減





Japan Display Inc.

## 2023年度 業績予想

## 3Q累計期間は通期予想に対して順調に進捗 前回予想で引き下げたVR売上予想は変更なし

(億円)	FY23			FY23 3Q累計期間 実績
	上期 実績	下期 11月10日予想	通期 11月10日予想	
<b>売上高</b>	<b>1,199</b>	<b>1,271</b>	<b>2,470</b>	<b>1,804</b>
車載	631	698	1,329	983
OLEDスマートウォッチ・VR等	401	390	791	566
液晶スマートフォン/欧米	137	154	291	206
液晶スマートフォン/中国	30	29	59	49
<b>EBITDA</b>	<b>△ 181</b>	<b>△ 94</b>	<b>△ 275</b>	<b>△ 230</b>
<b>営業利益</b>	<b>△ 214</b>	<b>△ 126</b>	<b>△ 340</b>	<b>△ 277</b>
<b>経常利益</b>	<b>△ 191</b>	<b>△ 134</b>	<b>△ 325</b>	<b>△ 264</b>
<b>当期純利益</b>	<b>△ 287</b>	<b>△ 153</b>	<b>△ 440</b>	<b>△ 380</b>



Japan Display Inc.

## 事業報告

# 能登半島地震で当社石川工場が被災も早期の復旧達成



## 石川工場



## 能登半島地震



### ● 元日 能登半島地震発生、当社石川工場が被災

- 複数の配管の損傷、漏水、ボイラー停止、機器のダメージとラインずれが発生

### ● 1月2日 復旧活動を即時開始

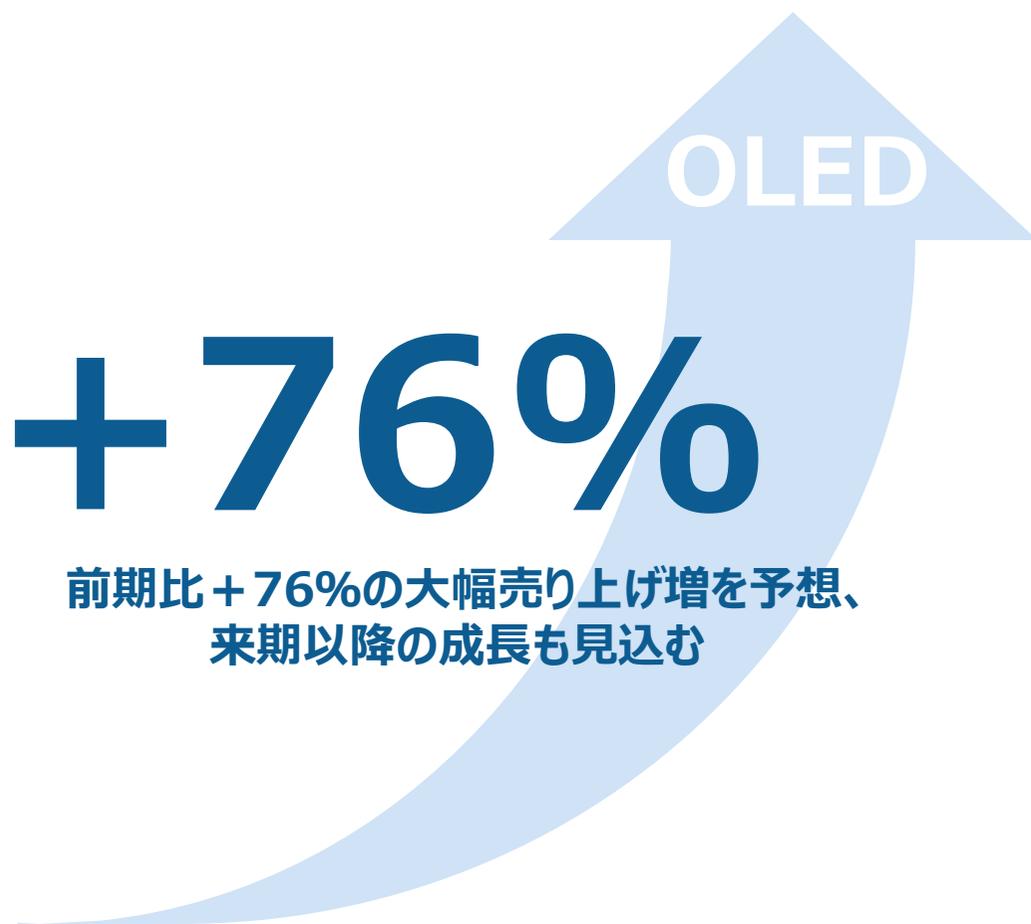
- 70名以上の復旧タスクフォースを即時立ち上げ、翌日早朝から復旧活動開始

### ● 1月24日 一部ラインで生産開始

- 精密装置の調整及び動作確認を慎重に進めつつ一部ラインでの生産を開始

### ● 1月31日 完全生産再開

- 関係者の皆様のご支援・ご協力により本格的に生産再開に至る



- 液晶からのシフトが進み、OLEDは成長産業
- JDIの競争優位性が確立され、顧客からの引き合いが大変旺盛、マーケットシェアを拡大中
- 稼働率100%（顧客需要が生産能力を超過）
- 規模の経済性による黒字化達成
- さらに、今までにない圧倒的なコストパフォーマンスを有する次世代OLEDであるeLEAPが今後の飛躍的な成長を牽引
- 中国安徽省蕪湖市と大規模eLEAP事業立ち上げに関するMOUを締結し、eLEAP生産能力の50倍以上拡大に向けた協議が順調に進行中

Wuhu

JDI

- 蕪湖経済技術開発区との間で、2023年9月29日にeLEAP事業を立ち上げる覚書（MOU）を締結し、協議が順調に進行中
- これにより当社のeLEAP生産能力を50倍以上拡大
- 本eLEAP 事業の立ち上げが、当社の「世界初、世界一」独自技術に基づく新しいグローバルディスプレイ・エコシステムの構築に向けた極めて重要な飛躍

## eLEAP

- environment positive
  - Lithography with maskless deposition
  - Extr<sup>e</sup>m<sup>e</sup> long life, low power, and high luminance
  - Any shape Patterning
- 環境ポジティブ
  - マスクレス蒸着+フォトリソ方式
  - 超長寿命・省電力・高輝度
  - フリーシェイプ・パターニング



## 高輝度（2倍）



既存技術では想像できない明るさ、鮮やかさ、フリーシェイプ<sup>o</sup>



eLEAP

## 長寿命（3倍）

寿命比較	新品 0h	1年後 1000h	3年後 3000h	5年後 5000h
従来OLED				
eLEAP				

※600nit相当輝度で3h/day点灯による輝度劣化を想定したイメージ

## OLED蒸着用マスクを使用せず、洗浄不要で環境にやさしいプロセス 最大で年間15万tのCO2排出量が削減可能



### 年間15万tのCO2排出量 =

CO2吸収量  
杉成木  
約1700万本



杉林面積  
東京ドーム  
3,700個



CO2排出量は第6世代基板30ksheet/月における当社試算

## 収益改善に向けた抜本改革

- 聖域なきコスト削減
- METAGROWTH 2026成長戦略に基づく「世界初、世界一」の  
新技術・新商品・新事業を創出
- 規模の経済性を確保するための  
工場稼働率向上



## 千載一遇の機会

- JDIが得意とする高性能LTPS  
パネルの需給逼迫
- 業界を通してのサプライチェーンの  
国際分散化



工場稼働率向上に大きく貢献する可能性  
があるとともに、業界再編を促進



「セルフケア」健康見守りサービス  
Virgo ヴァーゴ



Virgoのプレゼンテーションは、以下のリンクでご覧いただけます：  
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/6740/tdnet/2390008/00.pdf>



Japan Display Inc.

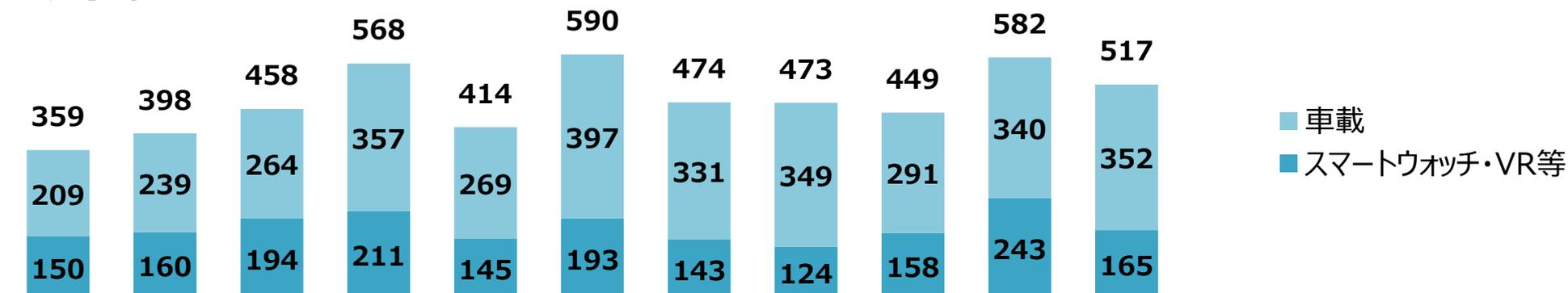
# Appendix

# 分野別四半期売上高推移

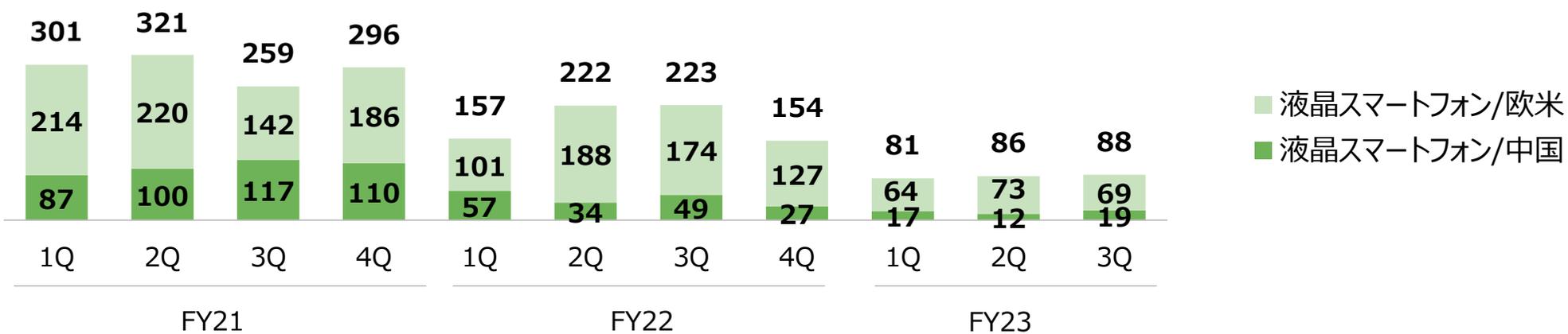


## コア事業

(億円)



## ノンコア事業



# FY23 3Q 営業利益増減要因



## 前四半期比

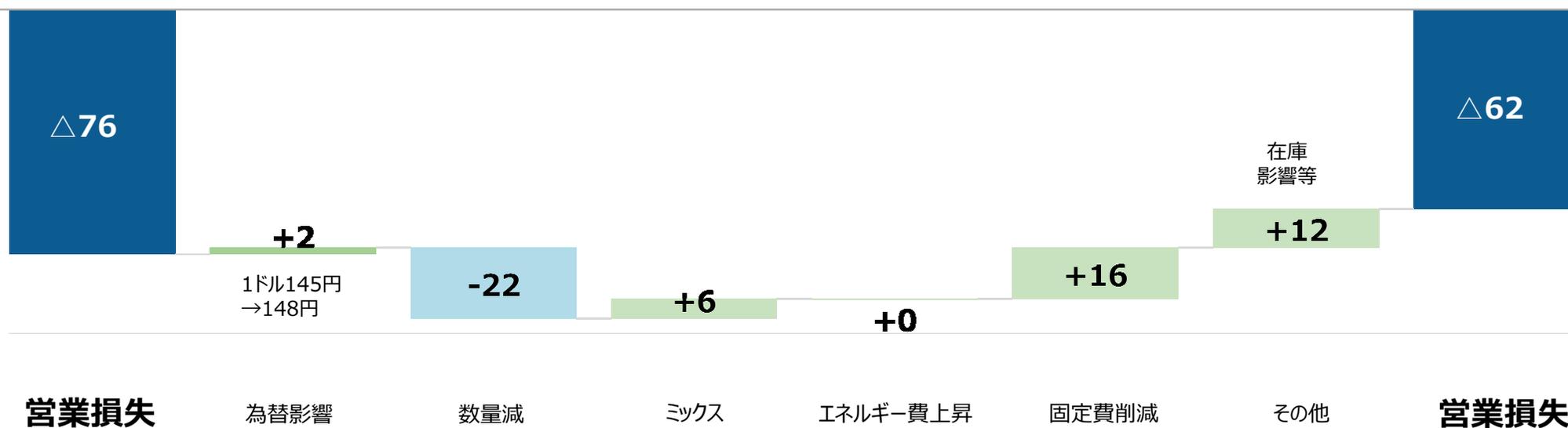
(億円)

FY23 2Q

売上高: 669

FY23 3Q

売上高: 605



# 連結貸借対照表



(億円)	FY22末	FY23 3Q末	前年度末比
現金及び預金	262	281	+19
売掛金	409	266	-143
未収入金	183	163	-20
在庫	603	631	+28
その他流動資産	51	53	+2
<b>流動資産合計</b>	<b>1,509</b>	<b>1,393</b>	-115
<b>固定資産合計</b>	<b>718</b>	<b>772</b>	+54
<b>資産合計</b>	<b>2,227</b>	<b>2,166</b>	-61
買掛金	452	447	-5
有利子負債	15	253	+238
未払金	93	174	+81
その他負債	423	417	-6
<b>負債合計</b>	<b>983</b>	<b>1,290</b>	+308
<b>純資産合計</b>	<b>1,244</b>	<b>876</b>	-369
<b>自己資本比率</b>	<b>55.8%</b>	<b>40.3%</b>	-15.5ポイント

(注) 貸借対照表の「現金及び預金」の額と、キャッシュフロー計算書「期末現預金残高」の額との差異は、「預け金」です。

# 連結損益計算書



(億円)	FY22 3Q会計	FY23 3Q会計	YoY	FY22 3Q累計	FY23 3Q累計	YoY
売上高	697	605	-92	2,080	1,804	-277
EBITDA	△ 85	△ 49	+36	△ 160	△ 230	-70
営業利益	△ 106	△ 62	+44	△ 224	△ 277	-53
営業外収益	6	14	+8	39	51	+12
営業外費用 (△)	△ 25	△ 25	+0	△ 26	△ 39	-14
経常利益	△ 126	△ 73	+53	△ 210	△ 264	-55
特別利益	135	0	-135	145	1	-144
特別損失 (△)	△ 60	△ 18	+42	△ 72	△ 110	-38
税引前四半期純利益	△ 51	△ 91	-40	△ 137	△ 374	-236
四半期純利益	△ 58	△ 93	-35	△ 174	△ 380	-206
平均為替レート (円/米ドル)	141.4	147.9		136.5	143.3	
期末為替レート (円/米ドル)	132.7	141.8		132.7	141.8	

# 連結キャッシュ・フロー計算書



(億円)	FY23 2Q会計	FY23 3Q会計	FY22 3Q累計	FY23 3Q累計	YoY
税引前四半期純利益	△ 161	△ 91	△ 137	△ 374	-236
減価償却費	16	14	64	47	-17
運転資金	63	43	△ 121	138	+259
関係会社株式売却益	0	0	△ 135	0	+135
その他	96	5	△ 47	76	+123
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>14</b>	<b>△ 29</b>	<b>△ 376</b>	<b>△ 112</b>	<b>+263</b>
固定資産の取得による支出	△ 16	△ 17	△ 75	△ 103	-28
その他	△ 9	0	△ 41	△ 11	+30
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 25</b>	<b>△ 17</b>	<b>△ 116</b>	<b>△ 114</b>	<b>+2</b>
短期借入金の純増減額	80	40	280	240	-40
その他	△ 2	△ 1	△ 3	△ 5	-2
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	<b>78</b>	<b>39</b>	<b>277</b>	<b>235</b>	<b>-42</b>
期末現預金残高	291	275	322	275	-47
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 2</b>	<b>△ 46</b>	<b>△ 450</b>	<b>△ 215</b>	<b>+235</b>

(注) 「フリー・キャッシュ・フロー」は、「営業キャッシュ・フロー」と「固定資産の取得による支出」の合計額です。



# THANK YOU

## 将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。

また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、スマートフォンその他の電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。